

## 質問回答

2017年2月13日

「全世界プロジェクト研究」アフリカ地域 カイゼン支援に係る標準アプローチ策定調査」

(公示日:2017年2月1日/公示番号:161083)について、業務指示書に関する質問と回答は以下のとおりです。

通番号	当該頁項目	質問	回答
1	P2. (4)調査対象国 調査対象国は別紙1に記載されている14か国	別紙1(JICA カイゼンプロジェクト一覧)に記載されています国数は13か国ではないでしょうか。	「…別紙1に記載されている13か国および日本の合計14か国とし、…」に訂正します。
2	P1. 1.業務の背景中段箇所 「…NEPAD と共に立上げ、拠点国に対するカイゼン支援の集中とアプローチの標準化を進めることでアフリカ全土におけるカイゼンの普及・展開を推進していく方針。」 P5. (3)カイゼンの普及・展開に係る運営・管理体制の調査・分析 「日本を含め、合計15か国について、カイゼンの全国普及・展開に係るアプローチの概要を取り纏める。また、うち、8か国については現地調査を実施する。」	P1の記載内容から、南アフリカにありますNEPAD Agency や汎アフリカ生産性協会(PAPA)、南アフリカ生産性本部(PSA)など、拠点としての活用検討も考えられるところですが、P5のカイゼンの普及・展開に係る調査・分析では南アフリカにある機関は含まれていません。これらの機関は本プロジェクト研究での調査対象とはしないということでしょうか。	ご指摘のとおり、南アフリカは調査対象に含まれません。 また、P5.(5)の 「日本を含め、合計15か国について、カイゼンの全国普及・展開に係るアプローチの概要を取り纏める。また、うち、8か国については現地調査を実施する。」 は 「日本を含め、合計14か国について、カイゼンの全国普及・展開に係るアプローチの概要を取り纏める。また、うち、8か国については現地調査を実施する。」 に訂正します。

3	<p>P3. 第 5 プロポーザルに記載されるべき事項</p> <p>1. コンサルタントの経験、能力等</p> <p>(1)類似業務の経験</p> <p>注)類似業務経験: 中小企業振興に係る調査・研究</p>	<p>指示書に記載された内容からは、「中小企業振興に係る調査・研究」に加え、「品質・生産性向上に関わる各種業務」も、本プロジェクト研究に類似した業務経験と考えられます。こうした理解に基づき提案を行ってよいでしょうか。</p>	<p>「品質・生産性向上活動」を通じた民間セクター開発も中小企業振興に含まれるという解釈で「中小企業振興に係る調査・研究」としております。</p>
4	<p>4 ページ 6 . 業務の内容 ( 2 )</p> <p>カイゼン知見共有セミナーでの発表</p>	<p>「カイゼン知見共有セミナー」のコンサルタントのプレゼンテーションは、インセプションレポートに関するものだけでしょうか。プレゼン時間はどれだけですか。</p> <p>プログラムとプレゼン実施者が分かれば教えてください。</p>	<p>質疑応答含めて 45 分～1 時間程度で考えております。プログラム及び他のプレゼン実施者については、現在検討中につき未確定です。</p>

以上